

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	- 物語文や説明文を読む学習では、叙述に即して心情等を読み取ったり、文の構成や内容から要旨を読み取ったりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 - 調べた内容や文章から感じたことへ自分の考えを書いたりすることに個人差がある。 - 自分の考えを主体的に話すこと、話の要点や意図を考えながら聞くことが不十分な児童も見られる。 - 漢字の学習に粘り強く取り組む児童が多いが、既習の漢字を日常的に適切に使うことができない児童も見られる。	- どの叙述から心情を想像することができるのかを話し合う。また、段落ごとの要点をまとめることで筆者の考えがどの段落に書かれているのかを明確にし、要旨を読み取ることができるように指導する。 - 誰に何を伝えるために情報を集めるのか相手意識や目的意識を明確にし、文章構成を考えて書くことができるように指導する。 - 自分の考えを話すことへの抵抗感を減らすため、少人数グループでの「話す・聞く」の活動を十分に確保する。また、話を聞く視点を提示することで、話の要点に着目して聞くことができるよう指導する。 - 積極的に辞典を使うことができるよう学習環境を整える。また、定期的に前学年までの漢字も復習する機会を設ける。
社会	- 資料を基に関心をもって学習問題を立てようと意欲的な児童もいるが、個人差が大きい。 - 調べる活動については意欲的に取り組む児童もいるが、複数の資料を比較、関連し、そこから考え、まとめる力が不十分である。 - 社会的事象について興味や関心をもっている児童も多いが、方位、大陸や海の名前等の基礎的事項の理解や、資料の読み取りなどの技能の面では習熟が不十分な児童も見られ、差が大きい。	- 児童一人一人に疑問を出させ分類し、学習問題を作っていくことで、全員の意見が反映された学習問題を立てていく。 - 児童の生活や経験を踏まえ、身近な事象を取り上げて興味や関心をもたせるとともに、それらの事象が社会や国民生活に深く関係していることに気付かせる。また社会的事象に関わる問題に目を向けさせ、自分なりの考えをもたせるようにするとともに、話し合い活動の場を多く設ける。 - 資料の見方を丁寧に指導していくとともに、複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し、比較させたり、関連、総合させたりする。また資料から読み取れる事実とそこから考えられる事柄を分けて表現させる。
算数	5展開の習熟別指導を行っている。 - 既習の基礎的な知識や技能が定着していない児童も一定数いる。 - 自分の考えを筋道立てて表現する力の個人差が大きい	- 個に応じた指導を心がけ、計算の基礎的な技能はドリル学習等で反復を通して習熟させる。また、学習の前には前時や既習事項の復習を適時取り入れ、本単元の学習につなげていく。 「言葉、式、図、数直線」などを活用させることで、自力で主体

	い。	的に問題解決できる力を高めるとともに、筋道を立てて説明できる力を伸ばす。
理科	- 生物への関心が高く、実験や観察の際に意欲的に取り組む児童が多い。 「変える条件」「変えない条件」を考え、条件制御をして計画を立てることに個人差がある。 「何となくこの結果になる」が多く、より妥当な考察をすることに個人差がある。	- 条件制御をする際、学習者用端末を活用しながら「変える条件」「変えない条件」に表に分けることで、考えを整理しながら計画を立てることができるようにする。 - より妥当な考察をすることができるよう、予想の段階で様々な考えを共有する。そして、結果からどのようなことが分かるのかを考えたり、他の班の実験結果を共有する時間を設けたりすることができるようにする。 - 自分の予想をより分かりやすく伝えるために、絵や図なども活用しながら表現できるようにする。
体育	体を動かしたり、ゲームに取り組んだりすることに意欲的な児童が多い。苦手な運動内容に対して、積極性に欠ける児童も数名見られる。	- 集団での関わりを大切にして、互いに声を掛け合い、達成感を共有できる雰囲気大切に指導していく。 - 自分の課題を意識しそれを解決するために練習の場を工夫したり、練習を選ばせたりする。スモールステップで技能を高めていく。
家庭	- 全体としては、落ち着いた雰囲気の中で学習ができている。しかし、学習規律が身に付いてない児童が各クラスに数名程度おり、学級全体がその雰囲気に流されるときがある。その時間をなくすことが、課題の一つである。 - 実習では、すべての児童に完成の喜びや達成感をもてるようにしたい。 - 学習指導要領の内容をさらに深く理解するとともに児童理解を進め、発達段階に応じた指導を徹底する必要がある。	- 聞く体勢づくり、話を聞くとときには私語をしない、順番を守るなどの基礎的事項については、家庭科でも指導を徹底する。 - 児童観察と理解、それに対応した指導法を工夫する。特に自己表現の苦手な児童への指導を注意深く行う。 - 実習を通しながら、家庭生活全般への知識や理解を深め、基礎的技術を身に付けさせ、家庭生活への意欲を高めたい。 - 課題をスモールステップに設定し、できたことを認め、学習意欲の向上を図る。 - 教材と指導の実際について、他校の実践を参考にしながら、教材研究を深める。 - 家庭科室の環境整備と教材見本の作成に取り組む。
道徳	道徳的価値について、その大切さを授業の中でしっかりと考えることができる。しかし、それを実生活の中で実践していくことができる児童は少ない。	- 道徳授業を学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが一層生かされるように効果的に主題を設定する。 - 少人数グループで自分の考えを伝え合う活動を設定し、多様な

	• 自分の考えを書くことは多くの児童ができるが、それを友達に伝えることには個人差がある。	意見があることを認める風土づくりを行う。自分の考えを伝える力やお互いの考えを尊重する態度を高めたい。
外国語	• 英語に興味をもっている児童は多い。しかし、授業の中で学んだことを次の授業や日常生活に生かそうとする児童は少ない。 • 初めて習う英単語に対して苦手意識をもつ児童がいる。	• 授業で学んだ外国語表現を日常生活でも活用できるよう、意識付けを図る。 • 初めて習う英単語や英会話に対して積極的に発言できる雰囲気をつくっていく。